

平八十年より天平宝字八年とを留二十九
年なり出羽柵を皆を毀て彼地へ迂一傳。
事といひ見（ま）出羽子准（彼地へ）柵を至り
る事を遷至といふ書一もや天平以後も出
羽ハ必府よりて柵柵を至る事三代実
録より明白なり。又一も書に記し傳れ、略之
追考當郡の内言清水の場あり當場
北より南。

同逸史第三十八卷曰天長七年孝三代
淳和帝九年号
正月癸卯出羽国驛馬傳曰鎮秋田城司正

六位上上總外藤原行則今月三日酉時牒
偁今日辰刻大地震動響如雷霆登時城郭
官舎并四天王寺丈六仏像四王堂舎等悉
顛倒城内屋仆擊死百姓十五人支體折損
之類一百餘人也歷代以来未曾有聞地之
割辟或處三十許丈或處二十許丈無處不
辟又城邊大河之秋田河其水涸盡流細如
溝疑是河底辟分水漏通海歟吏民騷動未
熟尋見漆河霜別兩岸各崩塞其水汎溢近
側百姓懼當暴流競涉山崗理須細録損物